

## Zoom歌会 佐藤博之

コロナ禍を受け、昨年五月よりZoomを活用した歌会を継続して開催している。早いものでその歌会も設立より一年が過ぎた。これまでに北は北海道から南は九州まで日本全国十六都道府県と米国より、合計三十名を超える参加者が集まってくれた。多くの方の継続的な参加に改めて感謝したい。

Zoomによる歌会の取り組みは、Webリモート歌会だけではない。東京歌会では昨年十一月からZoomによる歌会を導入し、現在は概ね隔月のペースでZoom接続によって開催している。また、今年の新年歌会・心の花賞群黎賞授賞式も、緊急事態宣言を受けて当初の予定を変更し、Zoom接続による開催となった。他、心の花の会員同士での歌会・読書会・勉強会もZoomを活用しながら催されているところもある。

勿論、Zoomによる歌会の開催は、心の花だけの話ではない。結社として有料アカウントを取得した塔短歌会や、選者がそれぞれに通常の歌会をZoomに切り替えて開催している未来短歌会などの各結社は勿論、ガルマン歌会・アルデバラン歌会・中之島歌会などの実績のある超結社歌会でも多くZoomを活用し、突発的な呼びかけによる私歌会も、随時数多く開催されている。全国各大学の短歌会・短歌研究会では歌会だけでなく、新人生勧誘活動も制約のある中でZoom頼りの会も多い。

しかしその反面、Zoom歌会にはまだまだ今後克服しなければならない課題も多いと感じている。

Zoom歌会は基本的に自宅から接続することは大きなメリットであると同時に、個々の事情により参加し難い理由にもなり得る。単に歌会に外出する時以上の家族の理解が必要であるし、家事や急な来客に対応せざるを得ないこと、生活音の気配りや部屋の片づけ一つにしても気にかかる点が多い。この点に関して、音の問題であれば発言時以外のマイクオフ、部屋の状況等は壁紙設定やビデオ停止という対策機能がある。勿論、家の事情での小さな中抜けや中断等については家族同様に参加者も寛容に接するべきだと思うし、そうありたいと企画している。次に、操作・接続に関する不慣れについては、少し知るだけで解決できたことも多かった。今後はノウハウの伝達・公開できる様にすることが求められるだろうし、私もできる限り応えたい。

そしてZoom等のリモート会議システムはこれまでの歌会を超えた活用を図ることができる。自宅の総ての資料・工具書や歌解釈に必要な小道具を用立てたり、簡単に発表資料を共有できることは、これまでの歌会のあり方を更新する可能性を秘めている。ひいてはこの技術の進歩・普及は歌会や短歌そのものの姿を革新し得る。新しくZoomを活用し歌会を開催してみたい方や歌会にZoomを取り入れたいという声があれば、ノウハウや広報の面で協力し、ともに盛り上げたいと思う。忌憚なく連絡相談頂けると有難い(裏表紙歌会案内参照)。

・益休み最後の午後のZoom歌会髭を伸ばしている大人たち

廣間菜月「心の花」二〇二〇年十一月号